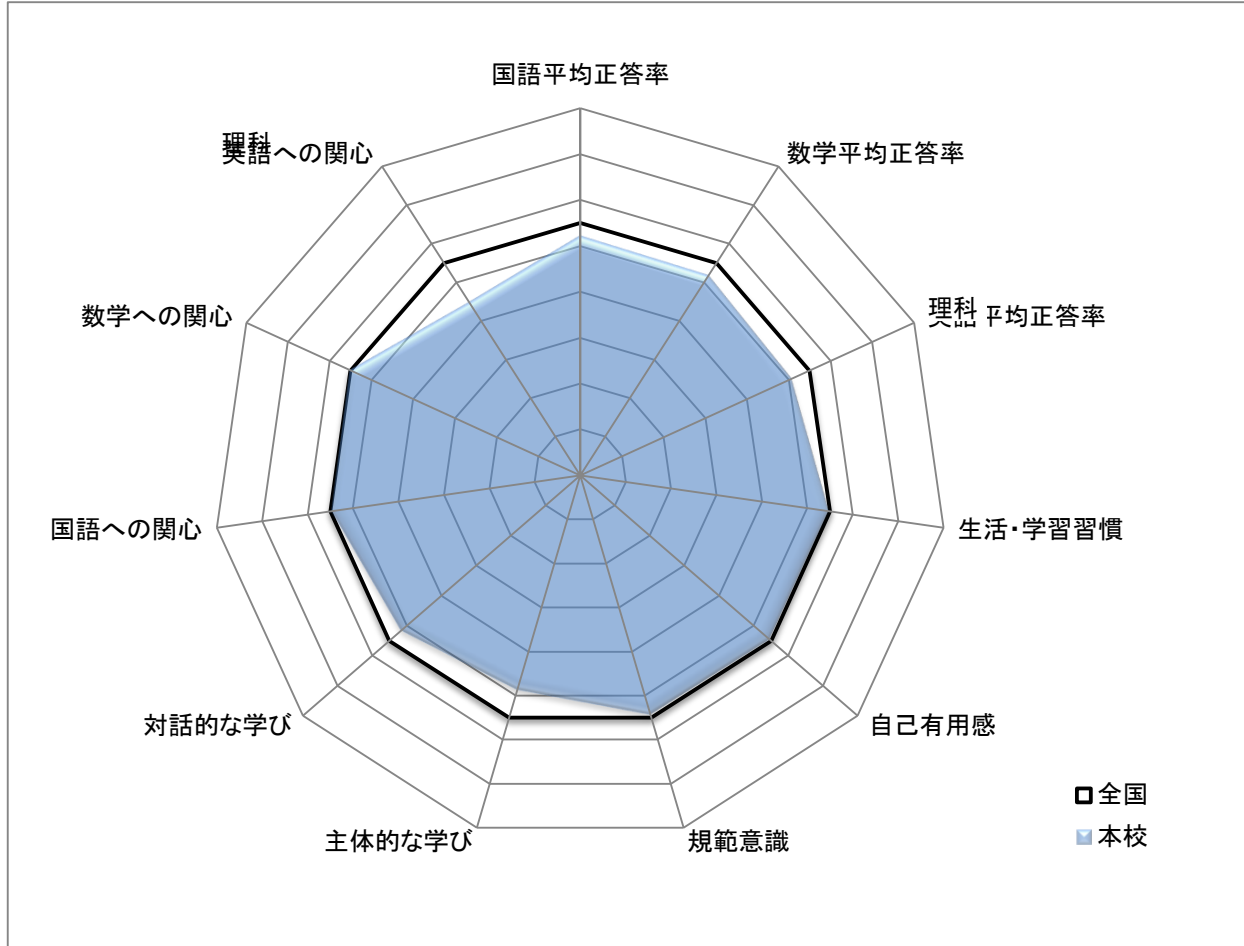


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

規範意識、自己有用感、生活・学習習慣ともに全国と同程度ではある。しかし、本校の取組である毎日の家庭学習のみで、十分な学習ととらえている生徒も多いと思われる。実際の学習内容は生徒によって違いが見られるので、自分の学力に応じてさらに積極的な学習がのぞまれる。授業への取組については真面目に前向きに参加できており、教科に対する関心が見られる。理科については分野によって自信がもてず、諦めてしまう生徒が見られることが課題である。

《授業改善のポイント》

国語・数学・理科ともに全国平均は下回っているため、引き続き確かな基礎・基本の事項の定着を目指す。国語では漢字テストの頻度を増やし、数学では習熟度別指導の実施を通して、生徒の理解度に根差した学習指導を行う。また理科では単元末には重要語句のテストを実施することで基礎学力の向上を図り、関心を向けさせるために授業改善を行う。
国語と数学の「関数」の定着に関しては、引き続き改善を目指していく。また理科の「地球」を柱とする領域について課題がみられたので、この分野の振り返りを行うとともに、結果を踏まえて指導方法を検討し、実践していく。

《チャートの特徴》

国語・数学・理科ともに正答率が全国平均を下回っている。国語、数学に関する関心は全国の水準とほぼ同じで理科に関する関心は低い状況にある。生活・学習習慣や自己有用感、規範意識は全国の水準とほぼ同じであるが、主体的な学び、対話的な学びに関しては全国の水準を下回っている。問題の区分については国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全てにおいて全国平均を下回っているが、特に「話すこと・聞くこと」に課題がある。また、数学では「関数」について課題があり、理科では「地球」を柱とする領域について課題がある。

《家庭・地域への働きかけ》

基礎基本の定着を目指して授業だけでなく、毎日家庭学習ノートに取り組みさせている。また、タブレットを用いたeライブラリも課題として取り組ませているが結果が出るまで粘り強く指導していく必要がある。家庭と連携・協力して継続的に取り組みたい。